



伊勢の神宮

神宮司庁

〒516-0023 三重県伊勢市宇治館町1
 電話 0596-24-1111(代)
<https://www.isejingu.or.jp/>



公共交通機関案内

電車	京都	近鉄特急 / 2時間10分	宇治山田
	大阪・上本町	近鉄特急 / 1時間50分	
	名古屋	近鉄特急 / 1時間30分	
	名古屋	JR快速 / 1時間37分	
駅から	宇治山田	バス / 15分	内宮
	伊勢市	バス / 20分	
	伊勢市	徒歩 / 5分	
自動車	伊勢インター	伊勢自動車道 / 5分	内宮
	伊勢西インター		
	伊勢西インター		

※所要時間は平常時を基準とした目安です。

参拝時間	1・2・3・4・9月 5:00~18:00
	5・6・7・8月 5:00~19:00
	10・11・12月 5:00~17:00

※年末年始は終日参拝可 / 行事・天候等により参拝停止あり (ホームページ参照)

神宮の文化施設



神宮徴古館
 明治42年(1909)に神苑会により造られたルネッサンス式の建物で、神宮崇敬の歴史と日本の文化を示す博物館です。御装束神宝の撤下御料など豊富で貴重な品々を見ることが出来ます。

入館時間：午前9時～午後4時(観覧は午後4時30分まで)
 休館日：毎週木曜日(国民の祝日及び休日の場合は翌日)、12月29日～31日
 入館料：一般 ¥500(20名以上の団体・¥300)
 小・中学生 ¥100
 (神宮美術館との共通観覧券あり)
 所在：伊勢市神田久志本町1754-1
 電話：0596-22-1700
 URL：http://museum.isejingu.or.jp/



神宮農業館
 明治24年(1891)、神苑会が外宮前に創設し、明治38年(1905)に倉田山に移転増築された、日本最古の産業博物館です。建物は徴古館と同じ片山東熊の設計で、徴古館同様に国の登録有形文化財です。

入館時間：午前9時～午後4時(観覧は午後4時30分まで)
 休館日：毎週木曜日(国民の祝日及び休日の場合は翌日)、12月29日～31日
 入館料：神宮徴古館の観覧券で入館できます。
 所在：伊勢市神田久志本町1754-1



せんぐう館
 第62回神宮式年遷宮を記念して平成24年(2012)に創設。原寸大の外宮御正殿の再現や神宝の製作段階を示した調製工程品などの展示と共に、数多くの映像を用いた、遷宮の全容が分かる博物館です。外宮休憩所を併設。

入館時間：午前9時～午後4時(観覧は午後4時30分まで)
 休館日：毎月第4火曜日(国民の祝日及び休日の場合は翌日)
 入館料：一般 ¥300(20名以上の団体・¥200)
 小・中学生 ¥100
 所在：伊勢市豊川町前野126-1
 電話：0596-22-6263
 URL：http://www.sengukan.jp/



神宮美術館
 平成5年(1993)の第61回神宮式年遷宮を記念して創設。美術・工芸家の方々(文化勲章受章者・文化功労者・日本藝術院会員・重要無形文化財保持者)から遷宮を奉賛して献納された絵画・書・彫刻・工芸品を収蔵・展示しています。

入館時間：午前9時～午後4時(観覧は午後4時30分まで)
 休館日：毎週木曜日(国民の祝日及び休日の場合は翌日)、12月29日～31日
 入館料：一般 ¥500(20名以上の団体・¥300)
 小・中学生 ¥100
 (神宮徴古館との共通観覧券あり)
 所在：伊勢市神田久志本町1754-1
 電話：0596-22-5533

倭姫文化の森

倭姫宮宮域を整備し、平成27年(2015)に開園した「倭姫文化の森」は、「美術館四季のこみち」・「いこいの広場」・「中央広場」などを含む美しい苑地で、数多くの植物が生育し、四季折々の花々や季節の移ろいを楽しみつつ散策ができます。



神宮文庫
 江戸時代につくられた神宮の図書館であり、神職子弟の教育機関でもあった豊宮崎・林崎の両文庫と、神宮に古来あった文殿・神庫等の蔵書を合わせて設立されました。神道、歴史、文学の関係資料約30万点を所蔵しています。

図書閲覧日：木・金・土曜日
 利用時間：午前9時～午後4時
 休館日：日曜日・国民の祝日及び休日、年末年始(12月29日～1月7日)
 所在：伊勢市神田久志本町1711
 電話：0596-22-2737



神宮のお宮と山
 神宮のお宮は唯一神明造という建築様式で、萱葺き屋根に素木の柱という簡素なお姿は古代の穀倉の形を留めており、日本の美意識の原型といわれています。内宮外宮の両正宮にはお屋根の千木や鰹木の他、構造的にも多少の違いがあり、殿舎の配置も若干異なっています。お宮の建つ神域は、両宮共に緑豊かな山々(宮域林)を背後に持ち、清らかな水に恵まれています。宮域林の大部分は天然林で、太古さながらの大自然を守る努力がなされており、また一部では、ご造管用材の檜などの植樹が計画的に行われています。



ご鎮座の由緒
 「日本書紀」によると、天照大御神の御霊代として鏡を歴代天皇が皇居内でお祭りされてきましたが、第十代崇神天皇の御代に皇居の外で祭られることになりました。第十一代垂仁天皇の御代、各地をご巡行されていた皇女倭姫命に「是の神風の伊勢の国は常世の浪重浪帰する国なり。傍国可憐国なり。是の国に居らむと欲ふ」という大御神のお告げがあり、この地にご鎮座されました。約二千年前のことといわれます。外宮は、その五百年ほど後、雄略天皇二十二年(四七八)、天皇の夢に現れた天照大御神のご神託により、豊受大御神が丹波国から山田原に迎えられました。



伊勢の神宮

「お伊勢さん」と親しまれる伊勢の神宮は、二千年という悠久の歴史を有し、日本人の「心のふるさと」といわれ、皇室の御祖神をお祭りする神社として、また日本人の総氏神的存在として、全国から深い崇敬を集めています。正式名称は「神宮」といい、皇大神宮(内宮)、豊受大神宮(外宮)の両正宮をはじめ、十四所の別宮、百九所の摂社、末社、所管社、合わせて二百二十五社の総称です。これらのお宮お社は、広く伊勢・松阪・鳥羽・志摩の四市、度会・多気(二郡にわたって)ご鎮座しており、様々な殿舎や種々の施設が付属しています。

神宮式年遷宮

式年遷宮は、二千年に一度、お宮を隣接する御敷地に新たに建て替え、御装束神宝もすべて新調して、神様にお遷りを願う、他に類を見ない壮大なお祭りです。両正宮においては、約八年をかけた三十以上のお祭りや行事を重ねて行います。その起源は古く、天武天皇のご宿願により、持統天皇四年(六九〇)に第一回遷宮が内宮で行われました。外宮ではその二年後に斎行。以来約千三百余年、式年遷宮は、戦乱により延引せざるを得ない苦難の時代を乗り越え、現在も宮々と続けられ、平成二十五年秋、第六十二回神宮式年遷宮が執り行われました。



五十鈴川と宇治橋

五十鈴川は御裳濯川とも呼ばれ、古来、参拝者が心身を清める清流です。五十鈴川にかかる宇治橋は、日常から神聖な世界へのかけ橋といわれ、全長一〇・八メートル、巾八・四二メートルで、欄干に一六基の菟花形金物を据えた純日本風の反橋です。外と内立つ高さ七・四四メートルの大鳥居は、両宮旧正殿の棟持柱が用いられ、さらに二十年後、鈴鹿の「関の追分」、桑名の「七里の渡」の鳥居となります。



皇大神宮(内宮)

神路山・鳥路山の麓、五十鈴川のほとりに鎮まります皇大神宮は、我が日本国の象徴と仰ぐ天皇の御祖先であらせられる天照大神をお祭り申し上げます。垂仁天皇の御代、伊勢の地にご鎮座され、今も変わらぬお姿でこの地にお鎮まりになっていきます。国の内に隈無く光が照り徹ると称えられる大神の御霊代として奉じる神鏡は、皇孫邇邇芸命が高天原からお降りになるとき、民の食料となるべき斎庭の穂(高天原の清らかな稲の種)と共に地上にもたらされました。ここに祖国日本の礎が固められたのです。

内宮神域のお社

神域内には正宮や別宮の他、瀧祭神、御酒殿、由貴御倉など数多くのお社がご鎮座しており、正宮脇の小径沿いに立つ御稲御倉や外幣殿では神宮独特の神明造を間近に見ることが出来ます。また、忌火屋殿は神饌の調理を行う所で、忌火屋殿前の祓所ではお祭りの際の修祓(清めの儀式)を行い、参道沿いにある五丈殿では撰社・末社の遙祀などが行われます。



御稲御倉



忌火屋殿前修祓

一年間のおもな行事

- 3月5日(5日間) 御塩焼き固め
- 3月下旬〜4月上旬 神宮奉納大相撲
- 4月19日 月夜見宮春季大祭
- 4月28・29・30日 春の神楽祭
- 5月5日 倭姫宮春の例大祭
- 5月上旬 神田御田植初
- 6月24日 伊雑宮御田植式
- 7月中旬 神宮奉納花火大会
- 7月下旬 瀧原宮の御祭
- 7月下旬 御塩浜の採鹹作業
- 8月上旬 荒塩つくり
- 中秋(旧暦8月15日) 神宮観月会
- 秋分の日をはさむ三日間 秋の神楽祭
- 10月5日(5日間) 御塩焼き固め
- 10月15・16日 初穂曳(お伊勢大祭)
- 10月25日 伊雑宮調献式
- 10月下旬 瀧原宮秋の御祭
- 11月5日 倭姫宮秋の例大祭
- 11月中旬〜12月下旬 新穀感謝祭



神楽祭

神楽殿

神楽は古代から神事に用いられて来た歌舞で、大御神の御神徳に感謝を捧げるものです。両宮の神楽殿では、参拝者のお申し出により随時御神楽・御饌のご祈祷を行っています。



神楽殿内宮

神楽殿

神楽は古代から神事に用いられて来た歌舞で、大御神の御神徳に感謝を捧げるものです。両宮の神楽殿では、参拝者のお申し出により随時御神楽・御饌のご祈祷を行っています。

神宮のお祭り

神宮では年間に千数百回に上るお祭りを、日々、五穀の豊穣や日本の安寧、皇室の弥栄などを祈りしています。そのお祭りの本義は、天皇が親しく大御神をお祭りされる所とあり、かつては内親王が斎王として、現在は祭主が天皇のご名代としてお仕えになっておられます。

神宮のお祭りは、恒例祭と臨時祭、遷宮祭に分けられ、通常に行われる恒例祭の内、神嘗祭、月次祭、祈年祭、新嘗祭には皇室より幣帛の奉納があり、月次祭以外のお祭りには勅使を遣わされます。臨時祭は、皇室や国家に重大事があったとき、臨時に行われるお祭りです。



神嘗祭

神嘗祭



大祓

大祓

大御神に新穀を奉る恒例祭典中の最重儀です。深夜に二度、由貴大御饌を奉り、翌日正午に奉幣の儀を行い、夕刻からは御神楽を奏し、大麻で穢れを祓います。(雨天時は五丈殿にて斎行)

大御神に新穀を奉る恒例祭典中の最重儀です。深夜に二度、由貴大御饌を奉り、翌日正午に奉幣の儀を行い、夕刻からは御神楽を奏し、大麻で穢れを祓います。(雨天時は五丈殿にて斎行)

一年間のおもな恒例祭

- 1月1日 歳旦祭
- 1月3日 元始祭
- 1月7日 昭和天皇祭遙拝
- 1月上旬 大麻層奉製始祭
- 1月11日 一月十一日御饌
- 2月11日 建国記念祭
- 2月17日〜2月23日 祈年祭
- 2月23日 天長祭
- 3月5日 大麻層頒布終了祭
- 春分の日 春季皇靈祭遙拝/御園祭
- 4月上旬 神田下種祭
- 4月3日 神武天皇祭遙拝
- 4月中旬 大麻用材伐始祭
- 5月1日 神御衣奉織始祭
- 5月13日 神御衣奉織謝祭
- 5月14日 風日折祭/神御衣祭
- 6月1日 御酒殿祭
- 6月15日 興玉神祭/御卜
- 6月15日〜6月25日 月次祭
- 6月30日 大祓
- 8月4日 風日折祭
- 9月上旬 抜穂祭
- 9月17日 大麻層頒布始祭
- 秋分の日 秋季皇靈祭遙拝
- 10月1日 御酒殿祭/神御衣奉織始祭
- 10月5日 御塩殿祭
- 10月13日 神御衣奉織謝祭
- 10月14日 神御衣祭
- 10月15日 興玉神祭/御卜
- 10月15日〜10月25日 神嘗祭
- 11月23日〜11月29日 新嘗祭
- 12月1日 御酒殿祭
- 12月15日 興玉神祭/御卜
- 12月15日〜12月25日 月次祭
- 12月下旬 大麻層奉製終了祭
- 12月31日 大祓
- 毎日 日別朝夕大御饌祭



日別朝夕大御饌祭(参進)

豊受大神宮(外宮)

伊勢市の中心部に、高倉山を背にしてご鎮座される豊受大神宮は、豊受大神宮をご祭神としてお祭り申し上げます。豊受大神宮は天照大神の御饌都神で、食物の神様として、ひいては衣食住、産業の神様として崇敬を集めておられます。外宮では、正宮板垣内の御饌殿において、ご鎮座より現在に至るまでおよそ千五百年にわたり毎日朝夕の二度、日別朝夕大御饌祭を行っています。天照大神を初めとする神々に、忌火屋殿で古式に則りきりだした清浄な火で調理した御饌を奉るお祭りです。



荒祭宮

内宮の第一別宮で天照大神の荒御魂をお祭りしています。内宮の神域内、正宮の後方にあり、正宮に続いてお祭りが行われ、奉幣の儀では勅使も参向されます。



月讀宮

伊勢市中村町にご鎮座する内宮の別宮で、天照大神の御弟神・月讀尊をお祭りします。月讀荒御魂宮と伊佐奈彌宮が並んでご鎮座しています。



瀧原宮

度会郡大紀町にご鎮座する別宮で、共に天照大神の御魂が鎮まります。倭姫命のご巡行の途中でお祭りされた宮地であったとされ、今も遙宮として崇敬を集めています。



伊雑宮

志摩市磯部町にご鎮座し、天照大神の御魂をお祭りする別宮。古来、農業・漁業の守り神として崇敬を集め、毎年6月に、隣接する御料田で行われる御田植式は「日本三大御田植祭」の一つとされています。



風日折宮

風を司る神・級長津彦命、級長戸辺命をお祭りするお宮で、内宮の神域内、風日折宮橋の南にご鎮座されています。鎌倉時代、蒙古軍を退けたご神威により、別宮に加えられました。



倭姫宮

伊勢市の倉田山にご鎮座し、倭姫命をお祭りしています。神宮と地元民による宮社創立の熱望により、大正12年(1923)に創建された、神宮のお宮お社の中で最も新しい由緒の別宮です。



風宮

外宮の別宮で、内宮別宮の風日折宮と同じく、風を司る神である級長津彦命、級長戸辺命をお祭りしています。古くから外宮宮域にご鎮座しており、正応6年(1293)別宮に加えられました。



月夜見宮

伊勢市宮後にご鎮座する別宮で、月夜見尊、月夜見尊の荒御魂をお祭りしています。河川の守り神として農耕とも深い関わりを持つ社で、承元4年(1210)別宮とされました。



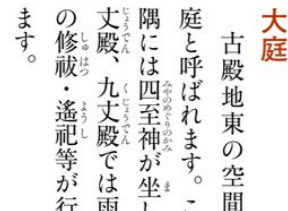
土宮

外宮の別宮で、御池の西側にご鎮座するお宮です。大土乃御祖神をお祭りし、古く山田原の鎮守神でしたが、外宮ご鎮座以降、宮域の地主神とされ、大治3年(1128)、別宮に昇格しました。



多賀宮

外宮神域内の石段を登った上にご鎮座し、豊受大神の荒御魂をお祭りする、外宮の第一別宮で、正宮に続いてお祭りが執り行われます。古くは「高宮」とも呼ばれました。



大庭

古殿地東の空間は大庭と呼ばれます。この東隅には四至神が坐し、五丈殿、九丈殿では雨天時の修祓・遙祀等が行われます。



勾玉池

せんごう館横にある池で、花菖蒲など多彩な動植物が生息しています。池畔の舞台では、観月会をはじめ、種々の奉納行事が行われます。